

「神が義と認めてくださる」

ローマ8：33-34

堀田修一 23・11・26

I 「だれが神に選ばれた者たちを訴えるのですか」：33。

1. まず、私たちがキリスト者としてどのように描写されているか注目したい。私たちは、偉大で愛に満ちた「神に選ばれた者たち」です。このみことばは、28節、29節、30節で語られている内容を見事に要約しています。聖書で用いられている「あらかじめ知る」という言葉には、「前もって選び出す」という意味があります。「前々からの選び」、選ばれた私たちに神が特別な愛情を抱かれていることを意味します。キリスト者とは、神が前々から選んでおられた人々です。「神に選ばれた者たち」とは、救いの確信と救いの最終的堅忍（神は救われた人を永遠に救いに保たれる）の恵みにあずかる人々です。私たちは、常日頃、自分のことを「神に選ばれた者」、神の大切な「所有とされた」民（I ペテロ2：9）、神が選んでくださり「格別にご自分の大切な存在とされた者」と自覚しているでしょうか？

2. 私たちが抱える問題の多くは、私たちが自分のことを「神に愛され、神に選ばれ、神の前に高価で尊い存在」という自覚をするとき解決の光が見えてきます。私たちキリスト者は、「神の選びの民であり」、「神の目に尊い存在です」。「神の所有とされた宝の民」「神に御子の十字架の尊い高価な血で、神のものとして永遠の滅びから買い戻されたもの」。神がご自分のために取り分けて（聖別）おられる私たち。私たちが、自分のことを前記のように聖書的に自覚するなら、私たちのキリスト者生活、私たちの考え方、物事の捉え方は、革命的に変化するでしょう。「自分の力で良い人、善良なキリスト者にならなければならない、自分の力で主を信じる決心をした」という考え方は聖書的ではありません。私たちキリスト者は、神の先行的な愛と恵みで「神に選ばれた人々、聖霊なる神により主を信じる信仰を与えられた者」なのです。

II だれが、神の選ばれた者たちを「訴えるのですか」：33。

1. 悪魔、サタンこそ、主を信じた私たちの「告発者、訴える者」（黙示録12：11）です。悪魔は、手を変え品を変え訴えます。私たちの良心につけ込む（神が赦された自分を自分では赦せず責め続ける）こともあれば、人々を通して働くこともあります。「あなたには、罪も、弱さも失敗もある。それでも真のクリスチャンなのか」と。その訴えに対する聖書の答えがあります→「兄弟たちは、子羊の血（主の十字架の血は、主を信じる者の過去・現在・未来の全ての罪の贖い、償い、赦しを成就した）と自分たちの証しのことば（「主を信じる私たちには、罪が残っていて、罪があり弱さ失敗があるが、私たちを選び、信仰を与えられた神は、「もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は、真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます」（I ヨハネ1：9）と堅く約束されている）」のゆえに竜（悪魔）に打ち勝った」（黙示録12：11）。

2. 悪魔が、不完全なキリスト者である私たちをどんなに攻撃し、訴えても、本日の次のみことば「神（真実な唯一の裁判官、審判者）が義（無罪、主の十字架の血による義の衣を着ている

ものは神の前に正しい)と認めてくださるのです」に勝利が圧縮されて表現されています。

Ⅲ 「神が義と認めてくださる」ことの深い恵み

1. 神が義と認めてくださるとは、感謝すべきことに、神は罪人である私たちが主を信じるときに、「神は無罪放免を宣告して下さる」という意味です。そうでなければ、私たちはみな自分の罪の故に永遠の滅び、永遠の刑罰の地獄に落ちています。私たちがまず最初に知るべき恵みは、主の十字架を私の罪のための贖いと信じる私たちが無罪放免にされているという事実です。
2. しかし、神はそれよりも先に進んで下さいます。「義と認める」とは罪が赦される以上の意味があります。すなわち、神は私たちが赦して下さっただけでなく、主の十字架の血できよめられた義の衣を着た私たちが神の前に「正しく、義である、神に受け入れられる者、これまで全く一度も罪を犯したことがない者のように」見なしとおられるという恵みです！
3. 神は、私たちの過去、現在、未来の全ての罪を、ご自分の愛する御子に負わせられたのです。神は罪は罪として罰する義の神です。神が、人類の罪を罰することなく赦されるなら、神は全く正しい義の神ではなくなります。そこで、神は、罪を正しく罰する義の性質と人を赦す愛の性質の両方を全うするために、愛する御子に全人類の罪を負わせ、罪の刑罰を完全に受けさせ、神の義が完全に全うされたので、神の愛の赦しが可能になったのです。神は、御子を罰せられたので、主を信じる私たちが罰することはないのです。この地上において日々の罪の告白は必要ですが。私たちは、主の十字架による①完全な罪の赦しと同時に②主の十字架による積極的な義をいただいているので、偉大な神に大胆に近づくことが出来るのです。神は私たちの罪をご自分の御子に転嫁するだけでなく、御子の義を私たちに転嫁して下さったのです。私たち罪人がよくやる責任転嫁の全く逆の恵みです。神はキリストの義を私たちに着せた上で、私たちが義と見なし、私たちが義であると宣言してくださるのです。
4. 私たちがキリストの完全な義をまとっているおかげで、何者も私たちに訴えることはできないのです。「神は罪を知らない方（御子イエス）を私たちのために罪とされました。それは、私たちがこの方であって神の義となるためです」Ⅱコリント5：21。これが義認です！「神はこの方（御子イエス）を、信仰によって受けるべき、血による宥めのささげ物として公に示されました。ご自分の義を明らかにされるためです」ローマ3：25。
5. 神がこの偉大な義の宣言を主の復活において行われたと次のみことばは教えます。「主イエスは、私たちの背きの罪のゆえに死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられました」ローマ4：25。神は私たちが義と認められる宣言を一度限り確定的に行われます。何度も行われません。神は初めから最後を知っておられます。私たちはひとたび神から義と宣言されるなら、永遠に神の前で義であり、正しい者と見なされます。主と主の十字架と復活の恵みを信じる信仰のみによる義認という教理を理解することは本当に重要です！私たちが信仰による義認の教理を真に理解するとき初めて自分が赦され義と認められ神に受け入れられている安心、平安を感じ、真の喜びを覚えるのです。
6. 励まし。私たちが主を信じる「信仰による義認」の恵みをしっかり受け取り心から感謝する時に、そこで止まらず、主の姿に変えられ続ける聖霊による「聖化」の恵みが始まります。義認とは、まだ罪の性質は残っていても、御子なる主の義の衣を着せていただいて、「主にある立

場」として神の前に義と認められる恵みです。それに続いて神の私たちの中での働きは止まらず、内住の御聖霊、みことばの力と命、父なる神が日常生活の中での試練、苦難、難しい人間関係等を用いて訓練されることにより主の似姿に「実際に」変えられ続け成長する「聖化」の恵みのプロセス、行程に私たちは入れられているのです。三位一体の神の何という恵みでしょう！「あなたがたは神によってキリスト・イエスのうちにあります。キリストは、私たちにとって神からの知恵、すなわち、義と聖と贖い（栄化）になりました」Ⅰコリント1：30。「私たちはみな…主の栄光を映しつつ、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられていきます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです」Ⅱコリント3：18。「主イエス・キリストの恵み、神（御父）の愛、聖霊の交わりが、あなたがたすべてとともにありますように」13：13